

国際生物学オリンピック日本委員会 プレスリリース

平成 21 年 12 月 8 日

国際生物学オリンピック日本委員会
委員長 毛利 秀雄

第 21 回国際生物学オリンピック日本代表が決定 ～日本にひきつづき韓国で開催される生物学の大会で、世界の検舞台に挑む～

国際生物学オリンピック日本委員会(委員長:毛利秀雄)は、第 21 回国際生物学オリンピック(2010 年 7 月 11 日～18 日の 8 日間、韓国・昌原(Changwon)市にて開催)の日本代表 4 名および次点者 2 名を決定しました。

代表および次点者は、全国 2,693 名の応募者から三次にわたる選考試験を経て選ばれました。今後、大学教員や専門家も交えた国際生物学オリンピック日本委員会のプロジェクトチームによる何回かの強化トレーニングを受け、国際大会において世界各国・地域から参加する代表たちと生物学を競い、そして生物学好き同士の友情をはぐくみます。

第 21 回国際生物学オリンピック 日本代表(50 音順)

氏名	ふりがな	性別	在学学校(所在地)	学年
栗原 沙織	くりはら さおり	女	北海道札幌西高等学校(北海道)	1年
坂本 莉沙	さかもと りさ	女	渋谷教育学園渋谷高等学校(東京都)	2年
三上 智之	みかみ ともゆき	男	ラ・サール高等学校(鹿児島県)	1年
水口 智仁	みなくち ともひと	男	開成学園開成高等学校(東京都)	2年

同 次点者(50 音順) 日本代表で参加できない生徒がでた際には、かわって次点者が国際大会の日本代表となります。なお、次点者も強化トレーニングなどに参加します。

氏名	ふりがな	性別	在学学校(所在地)	学年
久米 秀明	くめ ひであき	男	筑波大学附属駒場高等学校(東京都)	1年
谷中 綾子	やなか あやこ	女	桜蔭高等学校(東京都)	2年

国際生物学オリンピックは、世界の高校生を対象にした生物学の国際的なコンテストです。生物学への関心を高め、参加者の才能を伸ばし、生物学的研究に対する興味を喚起するとともに、各国の生物学教育の情報交換や生物学を学ぶ若者の国際交流を目的として毎年開催されています。1990年の第1回大会(旧チェコスロバキア・オルモウツで開催)から数えて第 21 回となる 2010 年の大会は、日本にひきつづき韓国で開催されます。

<問い合わせ先>

国際生物学オリンピック日本委員会

担当:川人、谷本、宮澤(財団法人日本科学技術振興財団生物チャレンジ係)

Tel:03-3212-8518 Fax:03-3212-7790 / E-Mail: jbo@jsf.or.jp

参考資料

■ 全国生物学コンテスト「生物チャレンジ」

国際生物学オリンピックの代表選考を兼ねる「生物チャレンジ」は、20歳未満で大学入学前の青少年を対象とした、全国規模の生物学に関するコンテストです。理論問題による第一次試験、実験問題を中心とした第二次試験、国際大会レベルの理論問題が出題される代表選抜試験で構成されます。

今回の代表4名および次点者2名は、下記の通り実施された「生物チャレンジ2009」で選抜されました。

	日程・会場等	対象
第一次試験	日程: 2009年7月19日 会場: 全国47都道府県の81会場	応募 2,693名
第二次試験	日程: 2009年8月17日～20日 会場: 広島大学(広島県東広島市) ※3泊4日の合宿形式	第一次試験で選抜された72名
代表選抜試験	日程: 2009年11月23日 会場: 科学技術館(東京都千代田区)	第二次試験で選抜された 高校2年生以下の15名

■ 国際生物学オリンピック日本委員会(Japan Biology Olympiad Committee: JBO)

国際生物学オリンピック日本委員会は、日本国内において国際大会に派遣する日本代表を選考する三次にわたる試験をおこなうとともに、日本代表団を組織し国際大会へ派遣引率しています。生物チャレンジに参加する生徒に先端的な生物学研究にふれる機会を提供するなどして、日本の高等学校等の生徒に対し、生物学への興味の喚起と知識の普及を図りつつ、広く科学技術一般への関心の向上と理解の増進を推し進めています。代表生徒の国際大会への参加体験は、将来の日本の科学技術を支える人材の育成にも役立つと期待しています。さらに、研究者・教育関係者の国際的な交流を促進し、日本の生物学教育や生物学研究の充実・発展に寄与することも同時に目指しています。

■ 国際生物学オリンピック(International Biology Olympiad: IBO)について

国際生物学オリンピック(IBO)は、1990年に旧チェコスロバキアのオルモウツで第1回大会が開催された生物学に関心を持つ高校生を対象とした国際的なコンテストです。

- ・生物学的問題の創造的な解決方法により、生物学的研究への活発な興味を喚起する。
- ・生物学教育に関するアイデアと教材の交換を推進する。
- ・生物学を学ぶ生徒間での定期的な国際的交流を推進する。
- ・様々な国の若者同士の友好関係を樹立し、それにより国家間の協力と相互理解を促す。

これらを目的に毎年開催国を持ち回り、開催されています。

コンテストは、生物学に関する理論課題試験と実技課題試験によって競われます。それだけでなく、参加者同士の国際交流も重要な要素となっています。IBOは毎年7月に開催され、そこには各国の国内選考を経た4名の生徒と2名のチームリーダーが国の代表として参加します。

■ 近年の国際生物学オリンピックと日本代表の成績

<第16回中国／北京大会(IBO2005)>

開催期間：2005年7月10日～17日 8日間

参加国(参加者数)：50カ国(198名)

日本代表(4名)の成績：銅メダル2

<第17回アルゼンチン／リオクアルト大会(IBO2006)>

開催期間：2006年7月9日～7月16日 8日間

参加国(参加者数)：47カ国(185名)

日本代表(4名)の成績：銅メダル3

<第18回カナダ／サスカトゥーン大会(IBO2007)>

開催期間：2007年7月15日～7月22日 8日間

参加国(参加者数)：49カ国(192名)

日本代表(4名)の成績：銀メダル1、銅メダル3

<第19回インド／ムンバイ大会(IBO2008)>

開催期間：2008年7月13日～7月20日 8日間

参加国(参加者数)：55カ国(220名)

日本代表(4名)の成績：銀メダル3、銅メダル1

<第20回日本／つくば大会(IBO2009)>

開催期間：2009年7月12日～7月19日 8日間

参加国(参加者数)：56カ国(221名)

日本代表(4名)の成績：金メダル1、銀メダル3

<第21回韓国／昌原(チャンウォン Changwon)大会(IBO2010)>

開催期間：2010年7月11日～7月18日 8日間

以上